

## (シラバスNo.23)

科目名	プロジェクト研究Ⅱ	科目コード	(2021年カリキュラム) / (2024年カリキュラム) 21P-P2/24P-P2
		科目群名	(2021年カリキュラム) 教育実践研究科目
			(2024年カリキュラム) 教育実践研究科目
	Project ResearchⅡ	必修/選択	(2021年カリキュラム) / (2024年カリキュラム) 必修/必修
		教職	—
担当教員	専任教員	単位数	2

## 【授業概要】

本授業では、プロジェクト研究Ⅰにおいて計画した研究計画に基づき、各自が実践研究（文献研究・調査研究を含む）を行い、その成果を課題研究としてまとめることを目的とする。また、段階に応じて2回の発表会の機会を設け、発表準備を通じて資料作成の能力を身につけ、発表を通じてプレゼンテーション能力を獲得し、他者と意見を交わすことで、他職種の中で自身の教育観を見つめなおすと同時に、自身の教育実践に、同一職種にも他職種にも伝えられることを目指す。課題研究執筆においては、論文執筆の能力を身につけるとともに、論理的思考力の獲得を目指す。

実践内容は以下の通り。

- (1) 先行研究の継続的な収集
- (2) 研究の実践（必要なデータの収集と分析による）と先行研究等も踏まえた考察の実施
- (3) 関連分野の基礎知識の習得・活用
- (4) 基礎的な研究方法論の習得・実施
- (5) 「中間発表会」の発表準備、発表と意見交換を通じた自身の研究の振り返り・軌道修正
- (6) 「課題研究」の執筆
- (7) 「研究発表会」の発表準備、発表を通じた自身の実践研究の成果公表

## 【授業の到達目標】

- ①自身の研究内容を自身の言葉で説明することができる。他者との意見交換によりそれを深めることができる。
  - A) 中間発表会では、研究へのフィールドワークを受けて、自身の研究を見直すことができる。
  - B) 研究発表会では、限られた時間の中で、自身の研究の全体像を他者に分かりやすく伝えることができる。
- ②課題研究については以下の3点を到達目標とする。
  - A) 現場での取り組みに基づいた課題意識に対する計画を具体的に実践（または文献研究、調査）として実施してデータを収集し、そこから先行研究も意識した考察を行い、結論を導くことができる。
  - B) 倫理的配慮に基づいた研究を行うことができる。
  - C) 体裁の整った論文を執筆できる。

## 【授業の形態】

メディア授業の実施（あり）

<授業の特徴>（毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください）

形態	実施	具体的に実施すること
講義		
グループワーク・質疑	○	・研究に関してディスカッションを行う
演習		
プレゼンテーション	○	・中間発表会 ・研究発表会
制作		
その他（個別指導）	○	・個別または複数による指導（主査ごと）

【授業計画】	
回	内 容
1	イントロダクション
2	先行研究の調査、収集
3	先行研究の批判的検討
4	データ収集 (1) 実践・調査の実施
5	データ収集 (2) データの整理
6	データ分析 (1) 分析と方法論の詳細学修
7	データ分析 (2) 主査による指導に基づく精緻化
8	中間発表会の資料作成、リハーサル
9	中間発表会での発表、質疑応答
10	「課題研究」の執筆 (1) 内容に基づいた章構成の検討
11	「課題研究」の執筆 (2) 研究の背景・目的・方法の執筆
12	「課題研究」の執筆 (3) 結果・考察・結論の執筆
13	「課題研究」の執筆 (4) 要旨の作成、推敲を経た完成・提出
14	研究発表会の資料作成、リハーサル
15	研究発表会での発表、質疑応答
【履修上にあたっての準備】 それぞれの段階において適宜、主査のアドバイスを受けてください。	
【授業外学修 (予習・復習)】 事前に資料を作成して、授業に臨んでください。必要な資料については、その都度指示を出します。	
【評価方法】 授業への貢献 (研究発表) (50%)、課題研究 (50%)。 本科目では、科目修得試験として課題を課す形ではなく、最終提出物である研究計画書までの一連の学修成果に基づいた形成的評価とする。  なお、課題研究の評価基準は以下の通り。 1. 現場での取り組みに基づいた課題意識であること 2. 課題意識に沿った計画をもとにした実践による研究であること 3. 研究をまとめるにあたり、実践の意義を尊重し、展望を見出していること 4. 実践研究における倫理的配慮ができていること 5. 論文としての体裁が整っていること 6. ディプロマポリシーに沿っていること	
【教科書】 授業で指示を出します。	
【参考図書】 阿部利彦. (2017). 決定版! 授業のユニバーサルデザインと合理的配慮 金子書房 ISBN 9784760828395 阿部利彦. (2017). 通常学級のユニバーサルデザインスタートダッシュ Q&A 5 5 東洋館出版 ISBN 9784491034195 岩澤一美. (2014). クラスが変わる! 子どものソーシャルスキル指導法 ナツメ社 ISBN 9784816355875 NPO 星槎教育研究所(2009). クラスで育てるソーシャルスキル 日本標準 ISBN 9784820804147 阿部利彦・岩澤一美(2019). これだけは知っておきたい 発達が気になる児童生徒の理解と指導・支援 多様性のある子どもたちのあしたのために 金子書房 ISBN 9784760832705 学習指導要領及び解説 (小学校・中学校・高等学校) : 文部科学省 蓮尾直美・安藤知子他. (2013). 学級の社会学 ナカニシヤ出版 ISBN 9784779507694 浜田博文. (2012). 学校を変える新しい力 小学館 (Kindle 版) ISBN 9784098401260 石戸教嗣・今井重孝編著. (2011). システムとしての教育を探る 勁草書房 ISBN 9784326250707 大谷 尚. (2019). 質的研究の考え方—研究方法論からSCATによる分析まで 名古屋大学出版会 ISBN 9784815809447 白井祐浩. (2017). 統計嫌いのための心理統計の本: 統計のキホンと統計手法の選び方 創元社 ISBN	

9784422116259

秋田喜代美・藤江康彦. (2019). これからの質的研究法 ～15 の事例にみる学校教育実践研究～ 東京図書 ISBN 9784489023071

※このほか「専門職者としての基盤」で提示される図書も参考にしてください。